第25回肝臓病教室

このたび、第２５回肝臓病教室が令和７年２月２８日に開催されました。今回は１１名の受講者にお越しいただきました。今回の肝臓病教室のテーマは、「肝がん」です。

まず、田中医師より「肝がんの治療の Up　To　Date」について講演がなされました。

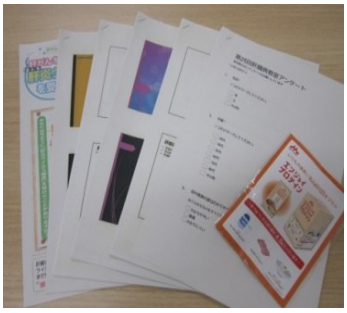
慢性肝炎から肝硬変、さらに肝がんに進行するケースが多くありますが、慢性肝炎から肝がんに移行するケースもあります。主な原因として肝炎ウイルス（HBV/HCV)、アルコール、MAFLD・MASH があります。肝がんにおける合併症には肝性脳症、腹水、黄疸、凝固能の低下があります。

肝がんの治療には肝切除、ラジオ波焼灼療法、肝動脈化学塞栓療法、薬物療法として分子標的薬や免疫チェックポイント阻害剤があります。肝がんは、がんのステージだけでなく肝予備能、肝臓以外の臓器への転移、脈管への広がり、がんの数や大きさも考慮して治療法を選択します。そのため肝臓専門医を受診し、定期的に検査を行うとともに治療の最新情報を聞くことが大事です。

続いて、仁部薬剤師より「お薬と副作用対策について」講演がなされました。

肝がんの治療方法として分子標的としてアバスチンがあります。比較的多く見られる副作用として蛋白尿と高血圧があります。免疫チェックポイント阻害薬としてテセントリク、イミフィンジ、イジュドがあります。注意が必要な副作用について間質性肺炎、甲状腺機能障害、下痢があります。何か気になる症状がある場合は、我慢したりせず、ただちに病院または薬局へご相談ください。

続いて、前原放射線技師により「肝がんはどうやって検査する？～CT・MRI を中心に～」について講演がなされました。



肝がんを発見するための検査として CT と MRI があります。CT 検査の特徴として細かく観察できる(最小 0.5mm 間隔まで)、 広範囲で多臓器の診断も可能(転移検索など)、息止め時間が短い、X 線を使用するので被爆を伴う、検査時間が 10 分程度と短いです。MRI 検査の特徴として肝臓の細胞レベルで質的診断が可能、肝臓の範囲のみの検査、息止め時間が長い、磁石を使用するので被爆がない、検査時間が長いがあります。検査で不安なことや疑問があれば遠慮なく放射線技師に尋ねてください。

続いて、田中管理栄養士より「食欲不振のレシピ」について講演がなされました。

体力が低下すると治療が困難なことがあります。そのため、治療の継続性を高めるためにも栄養療法の重要性が認識されています。食欲不振の原因の一つである味覚障害は日常的によく遭遇します。おすすめレシピの一つにお鍋があります。出汁は丁寧に取ることがポイントです。それにより塩分の取りすぎを防ぐことができます。オレンジ白菜や白ネギは体を温めます。木綿豆腐は B1 やカリウムが含まれおり動脈硬化や血栓を防ぐ効果があります。その他、七味やゆずなどは、香辛料や酸味によって食欲不振の手助けをしてくれる心強いアイテムです。

低栄養で治療の中断にならないようにすることが大事です。旬の食べ物を取り入れたり、見た目や彩りで楽しい食事時間を過ごすことで治療緩和につながっていきます。

当院では、定期的にさまざまなテーマで肝臓病教室を開催していく予定です。今後の予定につきましては、院内掲示や当院のホームページでご確認ください。

市立奈良病院　消化器内科